

発見! おごり遺産

No.031 早馬祭(はやまさい)

横隈区と乙隈区で行われる「早馬祭」とは一体どのようなものなのでしょうか。



早馬を神社へ
奉納する様子
(横隈区)

「早馬祭」は、毎年10月17日に乙隈区、11月第3日曜日に横隈区で行われます。祭りでは、馬を模して作られた、ワラ製の大きな「早馬」を地元の人々が抱えて集落を巡ります。

ワラ製の早馬は、地域の人が集まって作るもので、中心部に稲穂や枝についたままの大豆などを入れ、その周りをワラ縄できつく巻いています。巻き終えた縄の最後は結び目を作り、結び目から出ている縄をほぐすことで、馬のたてがみに見立てます。そして祭り当日、横隈は

隼鷹神社に、乙隈は天満神社に早馬を奉納します。奉納して神事を行ったあとは、早馬を担いで集落を巡ります。巡り終えた後は、ほどこいた綱(横隈区では「上締め」、乙隈区では「一番綱」や「分け綱」と呼びます)を奪い合い、手に入れた人は、それを家の屋根や玄関に飾って一年の厄除けとします。

いつ頃から始まったのか、なぜ行われるようになったかなどは、記録が残っていないため、どちらの早馬祭もはっきりと分かっていません。しかし、横隈区には寛政11年(1799)の記録が残っているため、江戸時代にはすでに行われていたと考えられます。豊作や無病息災を祈る行事として、今でも地域で大切に伝承されている早馬祭。平成10年(1998)には、横隈早馬祭が市指定無形民俗文化財となりました。横隈区や乙隈区を歩く際は、屋根の上や玄関先に綱が飾られていないか探してみてください。

問 文化財課

☎75・7555

南北朝・菊池一族歴史街道推進連絡協議会 「大刀洗編」九州南北朝時代の足跡をめぐる

問 埋蔵文化財調査センター ☎75-7555

10月号から紹介している、南北朝時代に活躍した菊池一族。今回は、大刀洗町を紹介します。

大刀洗町の町名は、菊池武光が合戦で血に染まった太刀を川で洗った故事に由来します。また、町のランドマークとして荘厳な威容を誇る今村カトリック教会は、潜伏キリシタンの信仰をその祖とするなど、ロマンあふれる町です。

筑後川の戦い

町名の故事を作った菊池武光は、南朝方の後醍醐天皇の命を受け、戦いに臨みます。この戦いは日本三大合戦のひとつに数えられると言われています。古人もそのありさまを「帰来、河水に笑って刀を洗えば、血は奔端にほとぼしって、紅雪をふく」(頼山陽)、 「そのかみの、血糊の色とみるまでに、紅葉流るる大刀洗川」(乃木希典)と詠じています。

菊池武光像

大刀洗公園の中央部に、菊池武光の銅像は立っています。昭和12年に建てられたこの像は、全国的にも珍しい下馬した姿で、今まさに太刀を洗おうとしているかのようです。馬の胴体や台座の傷跡は、陸軍大刀洗飛行場を標的とした大刀洗空襲の際の機銃掃射や爆撃によるものと伝わります。

